

第 28 回さんさんフェスタ記

ト田健司

2月11日(日)、文化パーク城陽西館地下にて表記のイベントが行われた。普段城陽で活動している各ボランティアグループが、活動内容を広く市民に知ってもらうためのイベントです。新型コロナ中の数年は自粛しパネル展示のみで開いていたが、ようやく落ち着いた本年は、以前のように会場設営での開催となりました。

本会の展示のテーマは、長らく調査・栽培実験を行っている「当帰」についてです。元は会員が持ち込んだ当帰ですが、会内で育てる会員が増え、各々の生育環境の違いで各種のデータが集積してきました。その報告は『会報 和訶羅河』に随時掲載しています。筆者としては、会員が育てている当帰の個々の状況を聴き取りなどを交えてまとめていきたい、また、まとめてほしいと思う限りです。



本会の展示、質問に答える会員

本会以外の出店団体は、「年金城陽女性の会」「日本ボーイスカウト城陽」「NPO法人市民共同発電」「城陽市環境パートナーシップ」「城陽市女性防火クラブ」等多岐に亘る分野がありました。また、特別ブースとして城陽市消防本部から「AED入門講習」というイザと言うとき大切な命を救う普及啓発講習会が開かれていました。

午前中は他のイベントがあり、さんさんフェスタ(展示会場)はそれほど多くの来場者があつた訳ではありませんが、昼前に他のイベントが終了すると一機に人が増え盛況でした。フェスタの最後に音楽演奏があり懐かしい曲や楽しい曲の演奏・歌唱があり盛り上がりしました。尚、『城陽の緑と文化財を守る会』訪問者は約90人でした。

フェスタ当日前の8日・10日に、準備として延べ7名の会員が作業を行いました。また、当日は10人の会員が会場を訪れました。

さて、さんさんフェスタに話を戻すと、当会ブースに設置していた『会報 和訶羅河』は、好評につき各号取りまとめて199部が興味のある方々に持って帰っていただきました。育成途中の当帰の写真や古地図等で当帰について説明板表示し、また展示机の上には当帰で作った漢方薬、飴、素麺、お茶、スープ等体を温める効用を利用したものを展示しその利用法の説明を行った。



当帰玄米茶